重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）	地域で子どもを教育する雰囲気が再生されている		
施策名	子どもの健全な成長を見守る地域環境をつくる	No.12	

年度	平成28年度
責任部長	こども部長
主担当課長	青少年育成課長
関係課	生活福祉課、高年福祉課、子育て支援課、生涯学習課

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値	実績値					目標値
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
		H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後
地域で子どもをはぐくむ活動をしている人の割合（％）	↗	10.4	10.3	10.6	11.8	10.2	11.8	15.9
		11.8	10.8	11.4	12.1	9.6		21.3
地域(子ども会、児童館、公民館）で主催している行事への子どもの参加数（人）	↗	－	－	－	－	－	－	－
		40,246	37,969	36,121	36,314	35,136		40,900
地域の人からほめられたり、注意を受けたりするなど言葉をかけられたことのある子どもの割合（％）	↗	－	－	－	－	－	－	－
		－	69.1	72.7	71.8	66.9		76.7

2. 外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

核家族化、少子化、夫婦共働きが進む状況で家庭の子どもを育てる力が低下している。また、多様なサービスの提供やプライバシー保護意識の高まりから近所の相互扶助が薄れ、人間関係が希薄化している。一方、子ども会や公民館活動等の従来の地域活動のほか地域の団体やボランティア等が学校活動に協力したり、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）による学校・地域・家庭の連携等も行われている。民間企業等でも小中学生の職場見学や体験を受け入れている。

3. めざすべき姿に対する現状評価（まちづくり指標や外的要因等からの評価）

現状評価	C 悪化傾向	「地域で子どもをはぐくむ活動をしている人の割合」は昨年と比べると減少しており、「地域(子ども会、児童館、公民館）で主催している行事への子どもの参加数」も昨年と比べると減少している、「地域の人からほめられたり、注意を受けたりするなど言葉をかけられたことのある子どもの割合」も昨年と比べると減少している。地域活動が全体的に停滞している傾向がみられる。目標値から見ると悪化している。

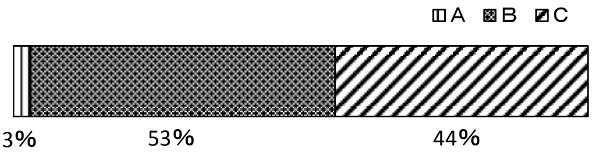
評価がB・Cの場合

4. 事務事業群に対する評価（行政活動の評価）

長期成果（事業群①）	長期成果（事業群②）	長期成果（事業群③）	長期成果（事業群④）
家庭が地域による教育の重要性を認識し、子どもが地域に育てられることを受け入れている	地域が地域による教育の重要性を認識し、地域住民間の連帯感が形成される		
青少年健全育成市民運動推進事業	放課後子ども教室事業		
青少年健全育成連携事業	三世代交流事業		
地域青少年健全育成会助成事業	地域学校外活動推進補助事業		
青少年街頭指導活動事業	地区公民館委託事業		
子ども・若者支援連携事業	児童館指定管理運営事業		
	子ども会育成事業		
	地域組織（母親クラブ）活動費補助事業		
	民生児童委員協議会補助事業		

評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）の一歩手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。
評価	長期成果の設定は、実施主体の「地域」と受け手である「家庭」の面からの切り口となっており問題はない。「めざすべき姿」の主体は「地域」であることから、市の行政活動が直接結果を出すものではなく、事務事業も補助や助成等の支援が中心となっている。今後も市としては、ニーズの把握に努め、地域活動への支援と家庭への啓発をより一層進めていきたい。
次年度の改善計画	【改善】①青少年街頭指導活動事業　巡回箇所を増やす。　②放課後子ども教室事業　実施校を10校増やす。 ③地区公民館委託事業　親子向けの教室を増やす。　④子ども会育成事業　各連区行事の充実を図るため、連区間での情報交換をする機会を設ける。県や他市の情報を提供する。広報誌等で子ども会行事への参加を促していく。

＊＊

市民からみた計画の進捗状況

・A判定（改善傾向）　3 ％
・B判定（停滞）　53 ％
・C判定（悪化傾向）　44 ％